

改訂にあたって

2013年に発行した「本当にわかる精神科の薬はじめの一步」は、医学生や初期研修医またプライマリ・ケアに携わる医師の皆さんが、精神科の薬物療法を理解する“はじめの一步”となることを目指しました。ローテートで精神科を研修する2週間～1カ月の間に読み切れる量、見ただけで単元の意図がわかることを目指した図表を多く載せました。図表の多くは、大学の講義やクルズス、患者さんに説明するときに使うような図やスライドをまとめました。おかげさまで、精神科の薬の基本的な考え方をわかりやすく解説しながら、処方例や処方のコツも交え、現場でも役立つ入門書として、ご好評をいただくことができました。共著者一同心から喜んでおります。

初版の発行から4年以上を経て、新薬の登場や適応の拡大、ガイドラインの改訂、新たなエビデンスの公表などがありました。読者の皆様からも、多くのご指摘やご意見を賜りました。そこで、本書の内容を最新の情報に改め、さらに充実させた改訂版を発行させていただくことになりました。

改訂のポイントは、薬剤の追加や変更、販売中止薬などの削除、そして新たな知見に基づいた内容の追加と修正です。変化が大きくご要望の多かった発達障害の治療薬について、新たな執筆者を加えて書き下ろしました。

この本を入り口にして、精神科薬物療法への理解が進み、患者さんのためになることを願っています。

2018年3月

東京女子医科大学医学部精神医学講座
稲田 健

はじめに（初版の序）

この本は、医学生や初期研修医、またプライマリ・ケアに携わる医師の皆さんが、精神科の薬物療法を理解する“はじめの一歩”となることを目指しました。精神科の実習や研修に来るとき、精神科の薬の処方を考えるときの入口となるような内容となっています。

この本は、各項目について、Point! となる図表を多く載せました。大学の講義やクルズス、患者さんに説明するときによく使う図やスライドをまとめたものです。図表をみながら読み進めていくことで、薬物療法の大枠がつかめることを目指しました。また、コラムでは、医局で先輩医師が後輩に話すような内容を少しずつまとめました。

具体的には、第1部で基本的なことに触れたあと、第2部から第4部で数多くある向精神薬の説明と疾患ごとの使い方、注意すべき副作用についてまとめてあります。疾患ごとの使い方では、薬の話と疾患のアセスメントのポイントが多くなりました。これは、薬物療法の前には、疾患と患者さんを上手にアセスメントすることが大切であるという考えが反映された結果です。

この本を読んだだけで、すべてをわかったなどとは思わないでください。もっとも奥の深い世界があります。疑問にぶつかったら、上級医、指導医に相談してください。より詳しい教科書を読んでください。疑問をもって、周りの人とディスカッションし、教科書を読むと、ぐっと世界が広がります。先生の臨床能力は上がり、患者さんのためになります。

この本を入り口にして、精神科薬物療法への理解が進み、患者さんのためになることを願っています。

2013年9月

東京女子医科大学医学部精神医学講座
稲田 健